

## 実践ノート

# 幼児教育における安全管理に関する授業実践 —看図アプローチからの新たな学び—

仲村 彩<sup>1)</sup>・山下雅佳実<sup>2)</sup>

NAKAMURA Aya YAMASHITA Akemi

キーワード：看図アプローチ・幼児教育・安全管理

### I. はじめに

第1筆者仲村はA大学の児童幼児学科で看図アプローチの手法を活用した講義を見学しました。講義に参加していた学生は、写真1枚から様々な「もの」を見つけるとともに、気温や湿度などの環境を考察し、それが子どもにどのように影響するのかというところまで学んでいました。学生が写真1枚から様々なことを読み取り、講義の中で深い学びを得ている姿を見て、私（第1筆者仲村）が保育者を志す学生を対象に同様の講義を行った場合、どのような反応が得られるか興味を持ちました。そしてこのたび、看図アプローチを活用した講義を実施することとしました。

### II. 授業対象者及び授業日等

B大学幼児・保育専攻の学生66人を対象に「子どもの健康と安全」という科目の第1回目授業で実施しました。授業者は第1筆者仲村です。

授業日時は、2022年9月26日(月)1限(9:00～10:30)と2限(10:40～12:10)です。なお、学生の記入したワークシートや感想を本稿に掲載するにあたり、目的や方法、参加は自由意志で拒否や中断に不利益がないこと、結果は匿名性を保持して公表すること、研究への不参加が講義評価等に影響しない旨を口頭で説明し、同意書へ署名

してもらいました。署名は33名の学生から得ることができました。

### III. 授業の実際

授業には第2筆者山下が開発した教材・授業案及びスライドを活用しました。まず、学生にはスライド1(図1)にて2枚の写真を掲示し、各々の写真に写っている「もの」を7つ探してもらいました。

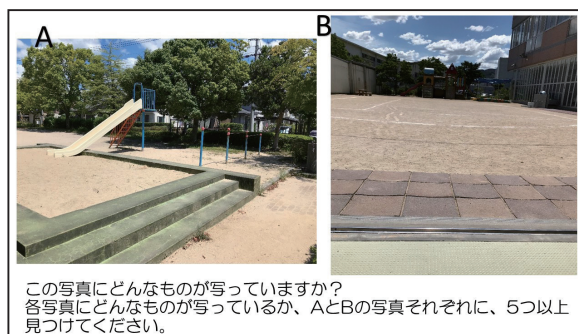


図1 スライド1

学生が個人で写真の中から見つけた「もの」は、グループ内で共有を行い、クラス全体でも共有を行いました。学生は、「砂場」「滑り台」「階段」「電柱」「ブロックタイル」「段差」「空」「木」「日陰」「ベンチ」「鉄棒」「校舎」「グラウンド」「段差(レール)」など様々な「もの」をあげてくれました。教員が「見て探してください」と伝えただけで、いろいろな

1) 筑紫女学園大学

2) 中村学園大学短期大学部

発見をしてきていました（図2・3・4）。

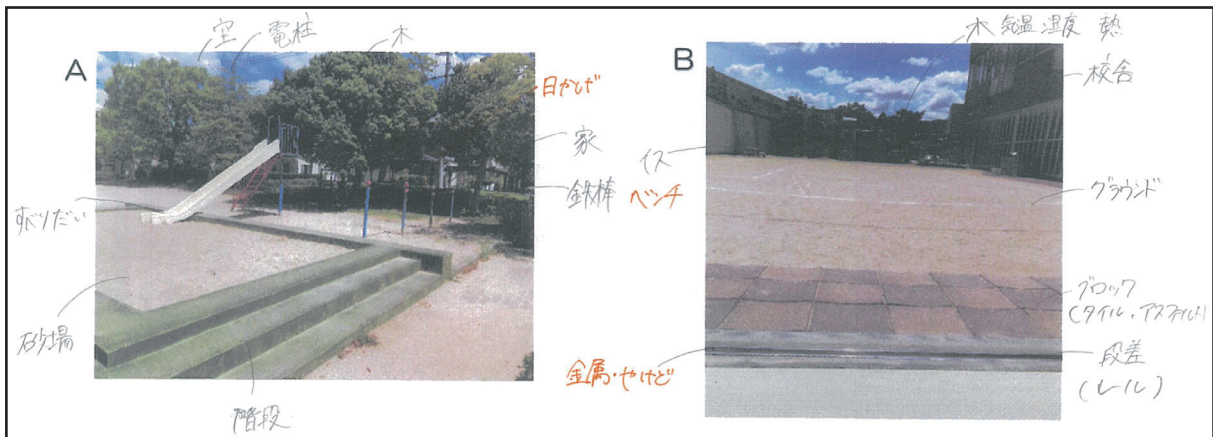


図2 学生のワークシート書き込み例1

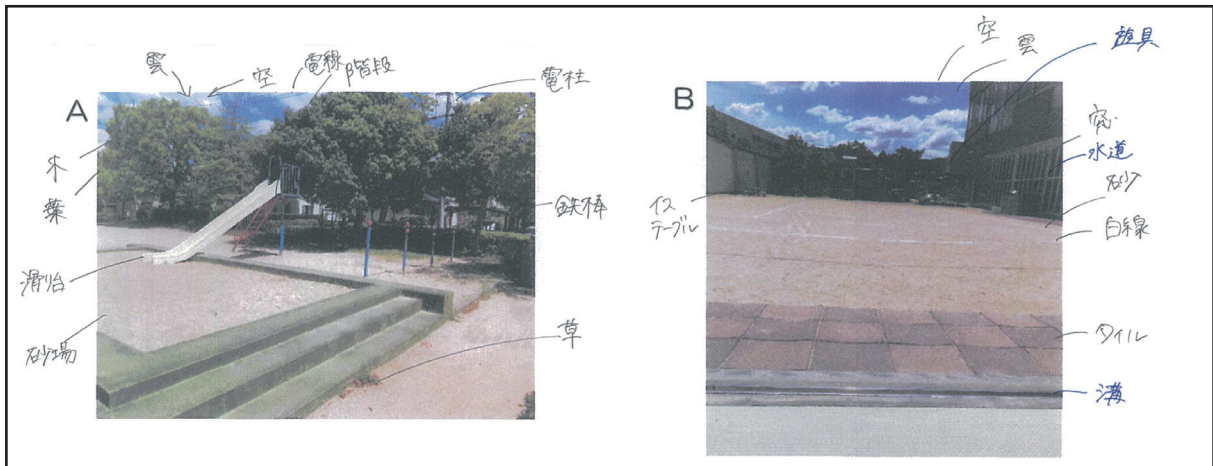


図3 学生のワークシート書き込み例2

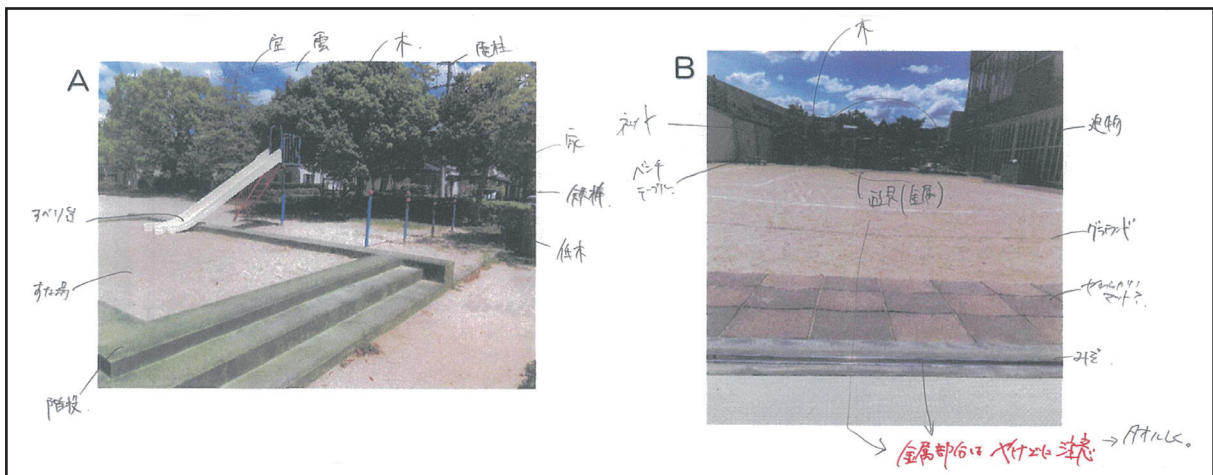


図4 学生のワークシート書き込み例3

次に、スライド2（図5）の写真を提示し、子どもを遊ばせることを想定したうえで、保育者としてどんなことに気をつけなければならないのか、個人で考えてもらいました。考えてもらった時間は5分程度です。

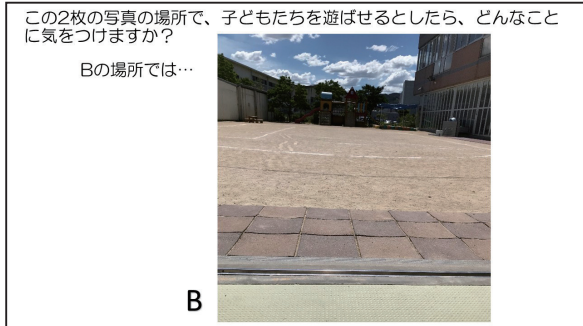


図5 スライド2

個人思考の後、グループ内で発表してもらいました。その際、気をつけることで、自分が考えていなかったこと、思いつかなかったことなどが発表された時は、青や赤でワークシートに追加するように伝えました。

クラス全体でも共有するため、各グループの学生に発表してもらいました。以下に学生の発表内容を紹介します。

- ・グラウンドに危険なものが落ちていないか確認して遊ばせる
- ・建物の近くだと怪我したりボールでガラスが割れたりするので、写真のように白線を引いてその中で遊べるようにする
- ・レールの外が道路であれば、レールの外には出ないということを声掛けしておく。もし

閉めることが可能であれば、前もって（窓を）閉めておく

- ・ボール遊びは窓ガラスの近くではしないことを伝える
- ・手前のタイルみたいな所は転ぶと危ないので気をつける
- ・日陰の場所が少ないので熱中症にならないように注意する
- ・車の侵入に気をつける
- ・人が少ないところを注意する
- ・建物のガラスが割れる可能性があるので見守る
- ・水分補給、熱中症に気をつけるように呼びかけ
- ・日陰での休息ができるようにする
- ・外に出ないように見守る
- ・子ども同士がぶつからないようにする
- ・レールに手を挟まないようにする
- ・タイルが他の所より熱くなっているのを、やけどしないようにする
- ・遊具が高そうだから転倒に気をつけるように
- ・遊具やレールなどの金属類はやけどのもと
- ・タイルでの転倒防止
- ・手前のレールでは転びやすいと思うので手をつないだりして注意する
- ・怪我や困っている子がいないかチェック

実際の書き込み例を3つあげておきます（図6・7・8）。

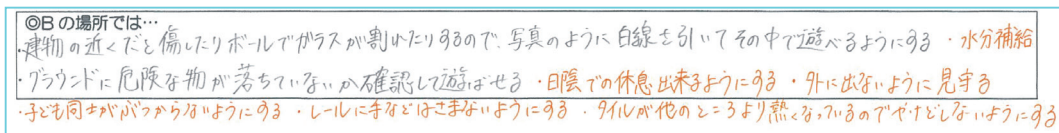


図6 気をつけることの書き込み例1

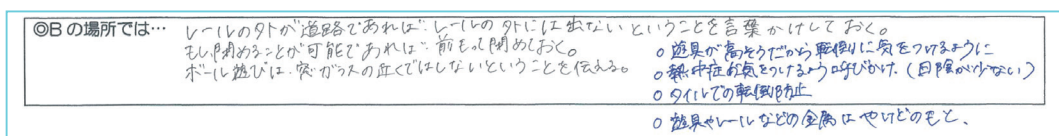


図7 気をつけることの書き込み例2



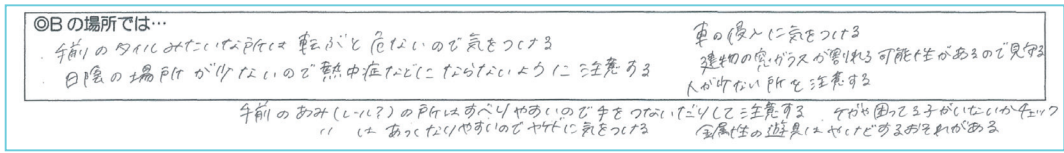


図8 気をつけることの書き込み例3

写真1枚から子どもの特性を考え、気をつけな  
 いといけないうちやリスクに関して一定程度、想  
 定している様子が見受けられました。

「気をつけないうちや」ということをクラス全体  
 で共有した後、写真を再度見てもらい、写真を撮っ  
 た季節と時間をグループ内で話し合って考えても  
 らいました。学生たちからは「この写真から季節  
 や時間を当てるの難しくない?」「え?わかんない  
 し…」というような発言もありましたが、グルー  
 プで互いに話し合いながら、季節や時間を共に考  
 えている様子うかがえました。

グループでの検討後、なぜその季節や時間と判  
 断したのか根拠を含めて発表してもらいました。  
 「撮影した季節」(時期)については、1限のクラ  
 スでは、6月と答えてくれたグループが1グルー  
 プ、7月と答えたグループが5グループ、8月お  
 よび9月と答えたグループがそれぞれ1グルー  
 プありました。2限のクラスでは、8月と答えた  
 グループが6グループと最も多く、7月および9  
 月は1グループずつが「そうだと思う」と答え  
 ました。

「撮影した時間」の学生の予想は、1・2限の  
 クラスのグループのほとんどが12時から14時  
 の時間帯と答えていました。12時と答えたグルー  
 プが7グループ、13時と答えたグループが6グ  
 ループ、13時半と答えたグループが2グループ、  
 14時と答えたグループが2グループありました。  
 時間についてどんなことを根拠にしたのか詳しく  
 聞きました。学生たちは「影が短い、太陽が真上  
 にある時間帯だと思うから」「(なんとなく見た感  
 じが) 太陽カンカン照りの時間かな」「人が全く  
 いない、もしかしたら暑すぎているのか」「子  
 どもの寝ている時間帯かな、と思いました」とい  
 う内容を発表してくれました。

季節と時間の予想を発表してもらった後に、ス  
 ライド3(図9)によって正解を発表しました。

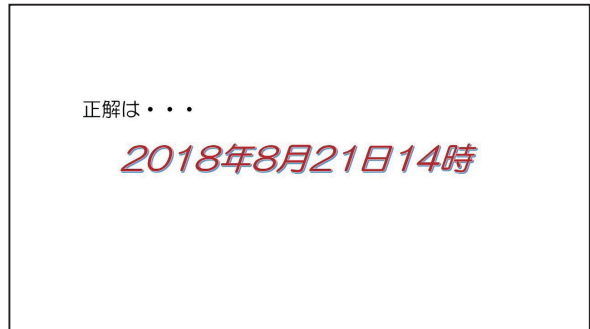


図9 スライド3

学生たちの反応は「あ～!季節はあっているけ  
 ど、時間が微妙だった～」「時間の予想が難し  
 かった」「暑そうだなと思っていたから、夏だろ  
 うなとは思っていたけど…」と自分たちが予想  
 していたことと写真撮影を行った事実の少しの  
 ずれに悔しさを感じた様子が見られました。写  
 真の撮影時期と時間の両方が正解できたグルー  
 プは、1グループのみでした。このような学生  
 の反応を見ると、写真を通して他者と話を交  
 わす機会を設けるだけで、こんなにも講義に  
 一生懸命に参加する姿勢を見ることができ  
 るのかと感動しました。

また、学生は季節や時間を発表する際に、「高  
 校や中学の時に習った気がしたから、なんと  
 かな(そう思った)」という発言も交えなが  
 ら発表をしていました。学生たちは、今まで  
 自分たちが勉強して身につけた理科の知識  
 (既有知識)を活かしているようでした。今回  
 の講義で、その知識を活かす場面が生じたこ  
 とで、記憶をたどりながら、写真の景色を  
 読み取る力を発揮しているのだなと感じまし  
 ました。そして私が一番驚いたのは、まだ保  
 育実習に行っていないにも関わらず、子ど  
 もの生活リズムをある程度予想できていたこ  
 とで

す。もしかしたら、身近に保育所や幼稚園に通園する子どもがいた可能性もあって、このことが予想されたのかもしれませんが、実際に発表した学生にその背景を聞き取ることはできませんでした。

グループで季節や時間の根拠について検討しあう学生の様子から、学生自身がインプットしていた情報(学んだこと)を他者へアウトプットし、共有しあう(理解しあう)ことは、学生同士の間で強く記憶されるとともに、学びをさらに深めるのではないかと感じました。

写真を撮った季節と時間を学生へ伝えた後、子どもの身体機能や発達の話とともに、日々の気温や湿度などの環境も常に気にして、子どもと関わることが必要であると説明を行いました(図10)。

子どもと関わる者として環境に配慮を怠ると、どうなるかということ問いかけるとともに、真夏にマンホールの上に転んで手をついた子どもの手がやけどしている写真を見せました。やけどの写真を提示すると「うわ…」と言い、目を伏せる学生もいて、とても反応が大きかったです。講義終了後のふりかえりの中にも「子どもの皮膚が弱い(薄い)ことを知り、軽く熱いものに触れるだ

けでやけどしてしまうことに驚いた」という素直な感想を得ることができました。

また、子どものやけどの写真を提示した後、私(第1筆者仲村)自身が子どもと公園に遊びに行った時のことを具体的に話しました。次のように伝えました。

「その日は8月某日の雲一つない晴天で、朝9時の時点で気温が30度を超えていました。公園には私たち以外に誰も人はおらず、『滑り台を独り占めできる!』と子どもは喜んで、滑り台を滑ろうとしました。しかし、私が子どもより先に滑って熱さを確認したところ、ズボンを履いて滑っても熱いと感じたので子どもには滑らせませんでした。滑り台の熱さも危険でしたが、朝9時の時点で、気温が30度以上でかつ、公園に日影はありませんでした。子どもには何度も水分補給を行っていましたが、汗が滴れるほどであったため、30分滞在することが限界でした。」

学生の感想には「真夏になると金属類が50度近くまで熱くなることを知らなかった」「熱中症や水分補給の大切さがわかった」「外で遊ばせることはいいことだけれど、常に危険と隣り合わせにある」「周囲には目に見えてわかる危険と逆に見えにくいこともたくさんあることが分かった」



図10 スライド4

「子どもが屋外遊びをするときには、考えれば考えるほど注意すべき点が出てくる」「子どもの話と一緒にしてくれるので、自然とひきつけられる、想像しやすい」などがありました。スライドに加えて、実体験を話すことで、学生にはより身近なものになったようでした。スライドを通して話すことも学びを深めるツールになりますが、学生にもわかりやすく想像しやすい話をプラスで行うだけでもさらに学びが深まることを実感できました。

また、次のような記述もありました。「一つの写真からどんなことが起きるか予想を立てるのは難しかった」「写真に写ったものを見て、何に気をつけたらいいのかを知ることができた」「自分の考えだけでなく、他者の気づきも共有することで違う視点を見つけることができた」「保育者になってからではなく、日常生活でも大切なことを知ることができた」など多くのことを考え、気づいてくれているようでした。自分だけの考え・意見だけでなく他者からの視点を得る必要性も学生は学べたのではないかと感じました。

#### IV. 考察

本研究で第1筆者仲村は初めて看図アプローチを活用した授業を行いました。学生1人ひとりが保育者になる者として深い学びをしていたことが感想から伝わってきました。学生が個人で考える作業も大切ですが、他者と会話を交えて共有することで、お互いにいろいろな視点を得ることもでき、学生1人ひとりの学びがさらに深まったのではないかと思います。第2筆者から看図アプローチは協同学習のツールの一つであることは聞いていましたが、協同学習に初めて取り組んだ私でもこのように効果があるとは思っていませんでしたので、とても驚きました。

また、写真を読み取ることからの学びに加えて、学生に身近なことを話すことで、具体的に保育者として子どもを屋外で遊ばせるときの注意点や配慮しなければならないことをリンクさせることもできたのではないかと思います。ただ単に私の

実体験の話をしただけでは、ここまで学生がやけどや目に見えないことにまで気付くことはなかったのではないかと思います。

今回、看図アプローチを見よう見まねで行いましたが、学生にはどのような反応が起きるのか、正直不安な部分もありました。写真から得た情報を学生がどのように解釈するのか、私（第1筆者仲村）自身が意図しないものも出てくるのではないかと、本来学ぶべきことからずれてしまうのではないかと思う部分もありました。しかし学生は、シンプルに物をとらえて、しっかりと観察し、そこからいろいろなことを考える力を持っていました。私はこのことに気づくことができ、私自身の学びになりました。看図アプローチで私自身も楽しく講義を行うことができたので、また機会があれば看図アプローチを用いた講義を行っていきたいと思います。

#### 引用・参考文献

- 鹿内信善 2015『改訂増補 協同学習ツールのつくり方いかし方 看図アプローチで育てる学びの力』ナカニシヤ出版
- 鹿内信善 2020 「アクティブ・ラーニングを引き出す『保育の心理学』の授業づくり—看図アプローチを活用して—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』4号 pp.24-43
- 鹿内信善・山下雅佳実 2016 「看護学の教育課程に適合した看図アプローチによる授業づくり—「小児看護学」での実践—」『福岡女学院大学大学院紀要発達教育学』第2号 pp.1-12
- 山下雅佳実 2022 「多職種連携教育プログラムの開発—『看図アプローチ』で子どもと保育と看護をつなぐ—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』10号 pp.33-52

注；本研究の一部に科学研究費22K02249をあたえた。

2022年10月29日受付

2022年11月2日受理